

いつも当社システムをご利用いただきありがとうございます。

今月分の請求書を送付いたしますので、ご査収の程よろしくお願い申し上げます。

いつもありがとうございます。

今年も局所的豪雨が起きています。皆さまのご実家やご友人の皆さまはご無事ででしょうか。なるべく地球のあらゆる場所に満遍なくゆるやかに雨がふってくれることを祈るばかりです。

「日本人なら一度は歌舞伎を見るべき！！」歌舞伎好きの友人たちは皆、口をそろえてそう言います。能は観たことがあります、歌舞伎も狂言も文楽も、一度は観てみようかなあとと思いつつ、一步踏み出せずにいました。

2019年こそは歌舞伎デビューしよう！と思っていたら、たまたま友人が「生協で安いチケットが買えるから行かない？」と誘ってくれました。演目は大ヒット漫画を舞台化した「新作歌舞伎 NARUTO」。初心者には丁度いいかもしれないと、チケットをとってもらいました。

初めての観劇にドキドキしつつ京都南座へ行きました。話もわかりやすく、派手な効果音や照明、背景の映像エフェクトも迫力がありました。終盤の大量の水を使った滝での戦闘シーンも迫力満点で面白かったです。

また、舞台の袖で床に木を打ち付けて音を出す人（『ツケ打ち』というそうです）の技術。常に会場中に響き渡る音を出し続けるなんて、すごいなあ…。それに、話の進行にあわせて背景画をススーっと動かして、別の場所から移動してきた背景画と、丁度いいタイミングと位置でピタッと合わせる技術のすごさ！そちらの方にも見入ってしまいました。

翌月は、友人たちが「生きる宝」と褒めちぎる片岡仁左衛門さんが出演される大阪松竹座の「七月大歌舞伎」へ。仁左衛門さんは三幕目の「義経千本桜」の知盛（銀平）役で登場されました。

壇ノ浦の戦いで海中に沈んだ平知盛が、実は生きていて渡海屋の主人・銀平と名乗り、義経への復讐を企てるお話です。

花道から銀平が出てくると、会場内は拍手喝采。私の席から見下ろすと花道の半分は死角になっていましたが、姿が見えた途端に鳥肌がたちました。すさまじい存在感！知盛が主演ですので当然かもしれませんが、セリフの言い回し・動きのひとつひとつが、とにかくめちゃくちゃかっこいいのです。2階からは遠すぎて顔の表情までは見えないが残念でした。オペラグラスが必要ですね！終盤、血まみれになった知盛が再登場すると、それだけで涙がでてきました。碇縄を身体に巻き付け、最後の気力を振り絞り、碇を持ち上げ入水するシーンではさらに迫力が増して、会場全体が引き込まれているようでした。

まさに「生きる宝」。生きていた間にしか見られない。少しでも早く見た方がいい。そう言っていた友人たちの言葉の意味がようやくわかりました。

歌舞伎の面白さはまだわかりません。でも、近いうちに仁左衛門さんのお姿をまた観に行きたいです。

近畿地方は観測史上最も遅い梅雨入りでした。こここのところの週間天気予報もあまり当たらないように感じます。天候は不順ですが、皆さまはどうぞお元気で楽しい夏をお迎えください。



京都南座の NARUTO 看板



大阪松竹座



「仁左衛門が魅せる渾身の碇知盛」
魅せられました！！

今月も最後まで読んで頂きまして、ありがとうございました。

来月もよろしく願っています。